

生産性新聞

発行所
社会経済生産性本部
メディアセンター
〒150-8307
東京都渋谷区渋谷3-1-1
電話 (03) 3409-1115
毎月5日、15日、25日の3回発行
年間購読料 7,484円
(消費税、送料込)
1部 250円 (消費税込)



2008年度日本経営品質賞報告会
今どきの部下指導①
千葉特集
チームマネジメントのすすめ⑤
離れて暮らす老親介護③

5 5 3 2 2

氏がコーデイネーターの鹿嶋敬・実践女子大学教授の司会進行で議論を行った。辻本氏は、部下が役員や管理職の相談役になる「リパスメンター」を導入していることや、メンター(＝支援を行う人)を活用する際には①トレーニング方法を開発すること、②入社直後からメンターをつけること、③メンティ(＝支援を受ける人)育成に貢献したメンターの評価を考慮することの三つが重要であることなどにふれ、それらの施策の結果、社内にメンター活用の風土ができていき、女性の定着率が向上したと述べた。

エンパワメント・フォーラム2009

女性の活躍、成長にメンターの活用を

ワーキングウーマン・パワーアップ会議と社会経済生産性本部は2月24日、「エンパワメント・フォーラム2009」を東京都内で開催し、女性を中心とした企業の人事担当者ら約250人が参加した。組織の中で女性が活躍し成長していくためには、メンターによる支援やキャリアアップの促進などが重要だとの意見が出された。

(関連記事2面)

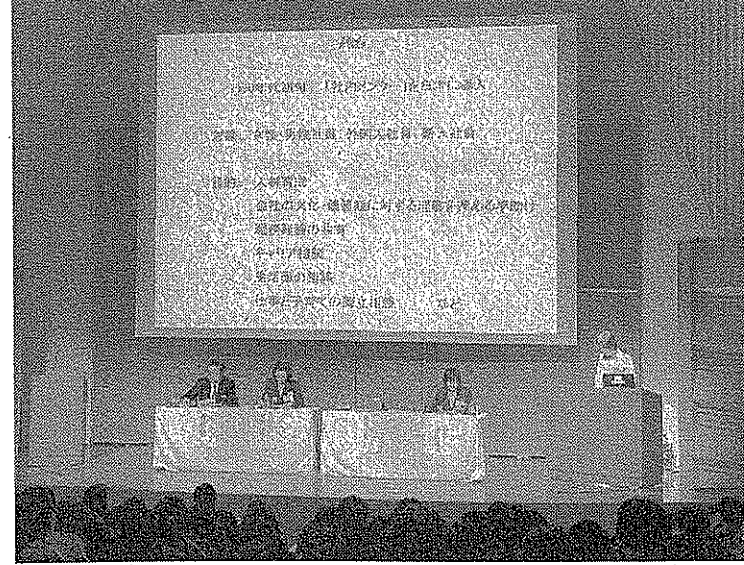
冒頭、同会議顧問の牛尾 正明・社会経済生産性本部 会長が開会あいさつし、「女性の進出が少なくなると男性中心のワーク・ライフ・バランスになってしまつて懸念がある。不況が深刻化

性役割は大変大きくなっていく」と主張した。次いで、先ごろ受賞者が発表された「メンター・アワード2009」の表彰式が行われた後、同会議の代表幹事の一人である資生堂の岩田喜美枝副社長が「女性の能力発揮で組織活性化」をテーマに基調講演を行った。

企業と比較して日本企業の女性の活用が遅れていることは国際競争力の点からも問題だ」と指摘した。さらに、資生堂の女性活躍支援事例を紹介しながら、「第1ステージの『女性子どもができたら退職が当たり前の時代から、

今は『女性はおろつて仕事と子育てを両立』の第2ステージにきた。今後は『男女ともに子どもを育てながらしっかりキャリアアップ』の第3ステージを目指す」と抱負を述べた。パネル討議「女性の活躍を応援する組織とメンター」では、P&Gエクスターナルリレーションズディレクターの辻本由起子氏(「メンター・アワード2009」組織部門優秀賞受賞組織)、帝人CSR室長の田井久恵氏(「メンター・アワード2009」個人部門優秀賞受賞者)、ブルドックス社長の池田章子氏(同会議推進委員)の3

田井氏は役員がメンターとなる女性幹部育成プログラムや、再雇用制度などを導入した事例を紹介しながら、女性の活躍を支援するには、人事制度やワーク・ライフ・バランス施策などのハードと、制度の柔軟な



都内で開かれた「エンパワメント・フォーラム2009」

岩田氏は「女性は子どもを持たなければ男性と同じように活躍でき評価される段階まではきたが、グローバルにみると課題はまだ多い」として、出産・育児を機に有職女性の約7割が労働市場から退出することや管理職に占める女性比率が1割に満たないことなどを挙げた上で、「人口減少社会では、いかに良い人材を採用し、能力を発揮してもらうかは企業にとって大きな課題だ。グローバル